

# 東讃管内学校連携による 地域農業への理解促進と就農意欲の醸成

## ■ 東讃管内農業関係高校等 ■

（東讃農業改良普及センター ○長野邦江、藤原尉嗣）

### ●対象の概要

東讃管内には、農業関係高校として、香川県立石田高等学校（以下「石田高校」とする）と高松南高等学校がある。

特に、当普及センターと同じさぬき市に位置する石田高校とは、平成27年度から連携授業を実施している。

#### 【石田高校の概要】

1年次は、4つの科において、普通教科と専門教科（農業、家庭）に関する基礎知識を学び、2年次から9コースに分かれて、専門的知識や技術を身に付ける（平成28年度生徒数は、362人（男子211人、女子151人））。

1年次	2年次
生産経済科※	農業経営コース 流通経済コース
園芸デザイン科※	園芸科学コース 緑地環境コース
農業土木科	土木工学コース 環境工学コース
生活デザイン科	食物栄養コース 服飾コース

※は農業を学ぶ「生産学科」とよぶ。

その他、「SLコース」では、進学や官公庁等への就職をめざす。

### ●課題を取り上げた理由

東讃管内の新規就農者は、平成28年度は60名で、その内訳は、新規学卒1名、帰農就農9名、新規参入14名、法人就農36名と過半数が農業法人等で雇用される形で就農している。（以上の数値は、普及センター調べ）。

そのような中、農業関係高校からの先進農家等現場実習や地域農業学習への期待は高く、年々参加人数が増加している。また、石田高校からは、高校で農業を学びながらも、農業分野への進学や就職につながらない場合が多く、残念であるという声も聞かれた。

そこで、これまで実施してきた先進農家等現場実習や地域農業学習と関連させて、平成27年度から石田高校と連携授業を開始し、一貫した支援を展開することとした。

### ●普及活動の経過

#### 1 石田高校との連携授業

石田高校では、卒業後の進学・就職に向けて、2年生から9コースに分かれる。そこで、1年生を対象に、様々な作目の農家の営農実態を紹介し、意見交換する機会を設けることとした。

#### 1) 東讃地区農業後継者クラブ連絡協議会（以下「東讃地区連」とする）が主体的に実施

これまで、東讃管内全域の農業後継者が一堂に会する機会はなかったが、近年の新規就農者の増加や活動範囲の拡大等を背景に、幅広い視野の情報交換が望まれていた。このため、平成27年5月、東讃管内の5つの後継者クラブを統合し、東讃地区後継者クラブ連絡協議会を設立した。

東讃地区連の設立と同時期に石田高校との連携授業の企画が持ち上がり、東讃地区連が主体となって普及センターと共催で連携授業を実施することとなった。



東讃地区連会員によるプレゼンテーション

#### 2) 連携授業内容の検討

農業関係高校とはいえ、生産学科の約7割が非農家出身者であることから、農業を理解することを目的に、農家の一日及び年間通じた農作業の様子をスライドで紹介することにした。東讃地区連の役員会（10月）において、石田高校生産学科の8部門（作物、養牛、養豚、養鶏、野菜、果樹、草花、造園）を意識して、紹介する作目と発表者を検討した。また、選択コースには含まれていない養蜂経営の会員にも発表を依頼した。

資料作成の段階で、すでに、農作業が終了し写真撮れない場面もあったが、消費者との交流や作業体験、生活の様子も織り交ぜるなど、興味深

い内容となるよう相互に検討を重ねた。

### 3) 連携授業の実施（1年生61名参加）

12月15日、石田高校において連携授業を開催した。当日の進行や作目別グループに分かれての意見交換など、東讃地区連の会員が運営し、記録や代表の発表は生徒が行うよう誘導した。教員と普及指導員は授業が円滑に進むよう事前準備を行い、当日は補佐役として運営を支援した。



#### 石田高校と東讃地区連会員とのグループ討議

### 2 先進農家等現場実習の実施（2年生対象）

平成27年度までは、農業経営高校2・3年生を対象に実施してきたが、28年度は新たに石田高校2年生6名が参加した。普及センターから、東讃管内農業法人2法人（畜産、水稲・麦）と農業士3名（野菜）、後継者クラブ員1名（花き）を紹介し、高校生は夏休み中の5日間、実践的な農業技術や経営管理手法を体験した。

### 3 東讃地域農業学習の実施（2年生対象）

10月に農業関係高校2年生51名（うち石田高校18名）を対象に「東讃地域農業学習」を開催した。東讃管内農業士3名（うち1法人）のほ場を巡回し、野菜及び採卵鶏経営について視察した後、経営者と意見交換を行った。採卵鶏経営では6次産業化の取組みなど、農作業+店舗経営という多角的経営の事例を紹介した。



#### 東讃地区地域農業学習で農業士を視察

### 4 レディースファーマーズフォーラムの開催

さぬき市農業委員会や普及センター、石田高校が連携して、平成26年度から女性農業者、新規就農者、石田高校1年生が一堂に会して、フォーラムを開催している。平成28年度は9月に開催し、普

及センターから新規就農の現状と支援策について情報提供した。その後、グループに分かれて、石田高校生と出席者との意見交換を行った。

## ●普及活動の成果

### 1 就農意欲の醸成

石田高校と連携授業を実施することで、生徒の就農への関心を高めることができた。

先進農家等現場実習で農業を体験した石田高校の生徒（非農家出身）が「かがわ就業・就農相談会（11月）」に参加し、将来の農業関係の就職先に関する情報収集に努めていた。

また、1年次の連携授業、2年次の現場実習を通じて、3年次の進路選択につながるように、一貫性を持たせることで、農業大学校へ進学する生徒が、平成26年2名、27年5名、28年9名と年々増加している。

非農家出身者が畜産経営を新規に開始することは、投資額が大きい等難しいことから、近年、石田高校出身者が農業大学校卒業後にさぬき市内の畜産関係法人に就業しているケースがみられる。また、1年次にレディースファーマーズフォーラム及び連携授業を経験することで、人前で自分の考えをまとめて発表できる機会になった。

### 2 東讃地区農業後継者クラブ連絡協議会の活動強化と相互交流の促進

連携授業における事例発表者は、石田高校出身者や年齢が近いということもあり、熱心な討議が行われ、自らの農業を紹介する良い機会となった。また、クラブ員は、計画から当日の運営や情報交換を通じて、技術向上、経営改善のきっかけにつながった。

## ●今後の普及活動の課題

### 1 青年就農給付金等の就農関係施策が充実したこともあって、農業関係高校卒業後、または、農業大学校等に進学後に就農する事例が増えている。

しかし、数年で転職したり、一方で、他の仕事を体験した後に帰農する事例もあるなど、卒業生の就農後の動向を把握できれば、今後の取組みの参考になると思われる。

### 2 法人就業の定着を促すため、農業法人における人材育成の事例調査を実施しており、今後も継続する計画である。